

△○□△○□ 校長室だより △○□△○□

私は新年度、とてもうれしい気持ちになるので好きです。というのは、どの子どもも「がんばろう」という気持ちで学校生活を送ることができているからです。新しい先生、新しい教室、新しい友達、そして新しい学習になり、不安とともに自分に対する期待が大きく膨らんでいるように感じています。感覚的にはすべての子どもがそんな気持ちがあると思わせてくれる表情や態度をしてくれています。

そしてこのがんばる気持ちが続かないのもまた子どもの特徴です。教職員はこのがんばりがずっと続けられるようにあの手、この手をつかって授業や生活を送っています。このがんばりとほぼ直結しているのが「生活リズムが整っているかどうか」です。遅刻が多かったり、欠席が多かったりする子どもはどうしてもがんばりの継続がむずかしくなります。だから子ども自身にも生活リズムを整えることを意識してほしいと話をしました。もちろん、リズムを作るのは私たち大人の責任だと思っています。

子どもに振り回されてしまう・・・

正しい親子関係を築く！と簡単に言いますが、なかなかむずかしいです。ある保護者の方が、「子どもがこう言っているから、〇〇のようにしてほしい」と学校に相談をくれました。また別の保護者の方からも「子どもがこう言っているから△△のようにしました」や「子どもが暴れるので言うとおりにしました」とお話をしてくれました。このように「子どもが言うから」のみで親が右往左往してしまう状況のことを“子どもに振り回されてしまう”と表現しています。もちろん、子どもの言うことに耳を傾けること、しっかり聞くことはとても大切なことです。しかし、その子どもの声だけで親が動いてしまうと、「言ったらなんでもしてくれる」と子どもは間違った学習をしてしまうことがあります。だから、子どもの意見を聞きつつ親としての考え方や思いを伝えながら、親が主導権を握って進めていく必要があります。例えば、子どもが「おもちゃを買って」と言っても親としては一旦、考えてから買うはずです。おもちゃを与えすぎてはいないか、ここでお金を使ってしまったら生活できなくなるのではないか、など大人が考えて結論を出すはずです。親が主導権を握っています。生活リズムを整えることやスマホやゲームを制限することはこれに似ていると思います。親が子どものために主導権を握って判断する必要があります。これを意識することが正しい親子関係を築くことになると考えています。

子どもにとっての「やさしさ」「きびしさ」とは

子どもが宿題プリントを学校に忘れたとき、学校に取りに来る保護者の方がおられます。宿題をきちんとさせようという思いでご足労いただきありがとうございます。一方で子どもはその時何を考えているのかな？と思っています。子どもが「どうしても取りに行きたい」と伝えてきたのなら良いのですが、親から「宿題取りに行くよ」と言われて来たのであれば、子どもは何も考えていないのでないかと少し不安になります。忘れたと気づいたときに「子どもにどうするかを考えさせること」が大切で、本当のやさしさだと思います。

さて、あるサッカーのコーチをしていた方が言っていた言葉です。
「本当のきびしさとは選手に何も教えないことです」。

その方は、サッカー選手として大きく成長していくためには「自分で気づき、考え、乗り越えていくことに意味がある」とおっしゃっていました。先生たちも「きびしい先生」「やさしい先生」と言われることがあります。きびしい、やさしいはその人のとらえ方です。一番重要なのは、目の前の子どもたちにとって何をしてあげるのか？どんな指導や支援をしてあげるのかを考えることだと思っています。子育ても同じで、子どもたちにとって今、何を大切にしなければならないかを考えていくことが重要だと思っています。